

「学生の学びを深める長期学校インターンシップのあり方に関する調査研究
-学生、学校、教育委員会のWin-Win-Winの関係構築のための連携-

調査の概要

◆課題認識

・長期インターンシップは学習指導力のみならず、生徒指導力などの教育実践力の育成に効果的であるが、その成果を十分あげるためには大学・学校両者の体制整備が必要である
・インターンシップを継続して実施するためには、大学・学校が互恵的に連携する必要があり、そのためには、大学・教育委員会が連携し、学生の教育のみならず、学校課題の解決のために大学が支援することが必要である

◆調査研究の目的

長期学校インターンシップの効果と課題を明らかにし、学生、学校の両者にとって実効性のある取組みとなるように、大学が教育委員会や学校と連携して改善・開発することである

・学生の実践的指導力の育成に効果的であるために必要な体制整備（大学・学校・教育委員会）を明らかにすること
・インターンシップを通して、大学教員が学校課題解決のために取組み、支援についての方策を示すこと

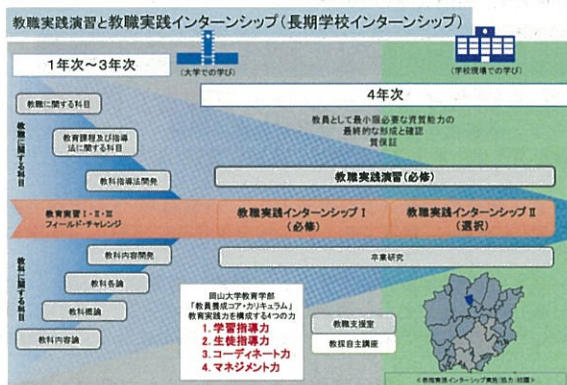
◆調査研究の方法

・インターンシップ受講の教員（卒業生）にアンケート調査を行い、実践的指導力育成のための効果と課題を把握すること
・現行とは異なる強化分散型・複数校種のインターンシップを実施し、大学側、学校側それぞれの効果と課題を把握すること
・インターンシップ校の教育課題解決に大学教員が教育委員会とともに関わり、支援体制をつくること

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ①インターンシップの実施形態について
従来の長期分散（週半日・約5ヶ月）に加えて強化分散（週2日連続を含む）を試行することで、多様な形態による学びの効果と課題を把握する
- ②卒業生調査
インターンシップの効果や、受講後のみならず、教職に就き、キャリアステージに応じて求められる資質の視点からの客観的な評価を行う
- ③学校課題への支援
これまでインターンシップ実施校の教育課題への大学の関与は個別的であったが、教育委員会及び教育学部全体として、組織的・計画的に関わる



◆成果

強化分散型のインターンシップでは、学生の自己課題に応じた多様な活動が可能となり、充実感が高かった（強化分散型85.7% vs 長期分散型50.0%）
強化分散型のインターンシップのためには、大学と学校（教育委員会を含む）のより密接な打ち合わせが必要であり、そのことが学生の活動の質の向上につながった

今後の課題

◆インターンシップ担当教員（大学、学校とも）への支援

- ・インターンシップの効果は活動内容以上に、目的の明確化、振り返りによる意義づけが重要であり、担当大学教員のFD研修を充実させる
- ・受け入れ校教員との共通理解が必要であり、これまで以上に密な連絡体制を確立する